

有明海再生赤潮モニタリング委託事業

夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリング

太田 洋志・岩永 卓也・藤武 史行・三根 崇幸

有明海における貧酸素水塊の消長シナリオの構築及び貧酸素水塊の発生予察手法の検討に資するため、夏季の有明海湾奥西部海域における植物プランクトンの出現状況のモニタリングを行った。なお、本課題の詳細については、「令和2年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩、赤潮・貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発 (3) 貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発報告書」で報告した。

方法

図1に示すSt.B3, P1, P6, T2およびT13の計5定点において、2020年7月13日から2020年9月1日にかけて計8回の調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度とした。

結果

各定点における珪藻類および渦鞭毛藻類の細胞密度の推移をそれぞれ図2および図3に示した。本観測において確認された植物プランクトンは、主に珪藻類および渦鞭毛藻類であり、ラフィド藻類はほとんど確認されなかった（データ未記載）。

珪藻類の細胞密度は、24~30,162cells/mlの範囲で確認され、7月20日、8月3日、8月25日および9月1日で5000cells/mlを超える高い密度であった。特に7月20日では各定点で21,240~30,162cells/mlと濃密であった。珪藻類が高密度で確認された観測における優占種は、7月20日および9月1日で*Skeletonema*属、8月3日で*Chaetoceros*属であり、8月25日ではSt.T2で*Skeletonema*属、St.T13で*Chaetoceros*属が優占していた（データ未記載）。

渦鞭毛藻類の細胞密度は、0~410cells/mlの範囲で確認され、8月12日および8月18日の一部の定点における

増加を除いて比較的低位で推移した。増加が確認された8月12日ではSt.P6で*Gonyaulax*属、8月18日ではSt.T2およびT13で*Ceratium furca*が増加していた（データ未記載）。

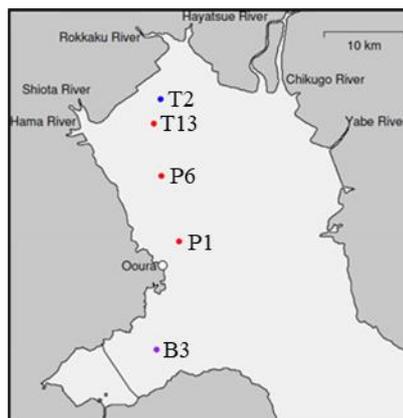


図1 観測地点

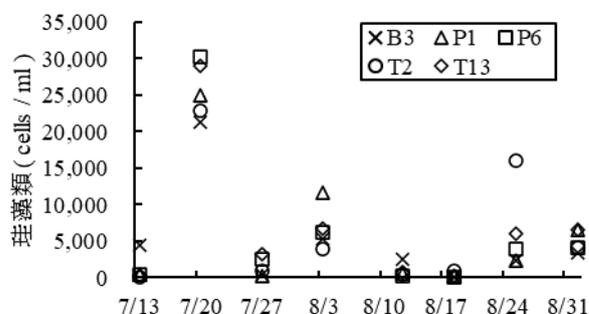


図2 各定点における珪藻類の細胞密度の推移

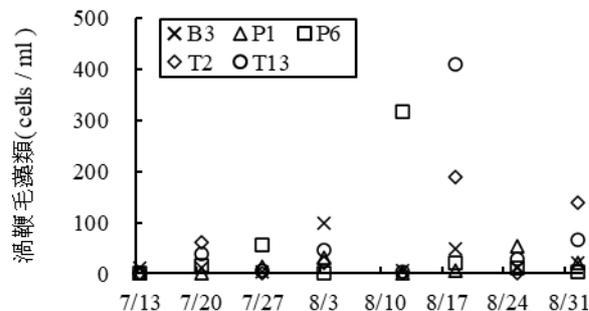


図3 渦鞭毛藻類の細胞密度の推移